

2020 年年賀式・第三学期始業式校長挨拶（2020. 1. 8）

明けましておめでとうございます。年末年始どのように過ごしましたか。大きな事故もなく新しい年を迎えられたことにまず感謝したいと思います。

さて、新しい年が始まりました。一年の計は元旦にありとありますが、新年というのは今年一年の目標を改めて考えるよいチャンスです。皆さんは今年の目標をどのように考えましたか。

今年は 2020 年になります。7 月 24 日の開会式から、東京オリンピック・パラリンピックが始まります。皆さんが想像している以上に、日本中が凄い興奮と熱狂に包まれる一年になると思います。前回の東京オリンピックもそうでした。

1964 年に行われた東京オリンピックのとき、私は小学校 1 年生でした。今思えば武蔵に入学する 5 年前でした。小学校 1 年生なんてそれほど記憶はないはずですが、色々なことをよく覚えています。というのも、当時私は文京区の公立小学校に通っていましたが、オリンピックの前に、何故か全教室にテレビが入ったんですね。当時は白黒のテレビですが、それで、よく授業でもオリンピックを鑑賞して、作文を書かされました。だからあのときの日本の興奮をよく覚えています。そして、確か閉会式の作文も宿題に出て、「もう生きているうちに見ることはないだろうな」と書いたことを覚えています。

それが、あれから 56 年。生きているうちに再び東京オリンピックがやってきました。今年はいやがうえにも、盛り上がっていくと思います。様々なアスリートが、特別な思いでオリンピックを目指して頑張っています。余談になりますが、武蔵の卒業生でオリンピックに出場した先輩もいます。馬術の法華津寛（ほけづひろし）さん。変わった名前ですが、法華経の法華に三重県の県庁所在地の津、さらに寛大の寛と書いて法華津寛さんです。33 期生ですが、武蔵を卒業後、23 歳で東京オリンピックの馬術に出場。そして法華津さんが話題になったのは、時が流れて、2008 年の北京オリンピックに 67 歳で出場したこと。さらに 2012 年のロンドンオリンピックに 71 歳で出場したことでした。馬術の競技性もあるかもしれませんが、それにしても、心技体が求められる厳しいスポーツ競技で簡単なことではありません。凄いですよ。

さて、話を戻して今年東京オリンピックイヤーになります。今この年になって 1964 年の人々の様子を思い出してみると、たぶん 2020 年も人々の興奮や熱狂は変わらないだろうなあと思う一方で、あの頃と今とでは日本を取り巻く時代の状況は変わってきていると思います。1964 年は今にして思えば、戦争が終わってまだ 20 年弱でした。戦争の傷跡

がまだあちこちにありました。オリンピックはまさに「平和の祭典」という性格をもっていますが、戦後20年でよくここまで復興したという喜びと誇りが当時の日本にあったように思います。

1964年の東京オリンピックのあと、日本は経済の高度成長を続け、やがて世界第二位の経済大国になります。それが終わりを告げるのは、紆余曲折はありましたが、1990年を過ぎ、バブル経済がはじけた頃です。その後日本は有難いことに戦争にも巻き込まれずに、確かに平和なんだけれど、なんかモヤモヤしているような時期をずっと過ごしているように思います。1964年の東京オリンピックはみんなが敗戦から立ち上がろうと、日本全体は貧しかったけれどなんとなく単純に希望が持てる時代だった。今は、あの頃より全体的には豊かになっているかもしれないけれど、世の中は複雑で、これから時代はどこへ行こうとしているか、なんとなく「先行き不透明で不安な時代」かもしれません。

実はそうした「先行き不透明な時代」という認識は、日本だけでなく、現在、世界に目を移しても、同様のことが言われます。今、本当に時代は「混迷」していますよね。何が起こるか分かりません。直近のことでいえば、イランとアメリカのことも心配ですよ。地球温暖化の影響もあるかもしれませんが、オーストラリアの火事も凄く心配です。そうして現代の特徴はグローバル化。世界で起きた色々な動きが世界中にすぐに連鎖していきます。そうした混迷するグローバルなつながりの深まる時代の中で、私たちは日々の暮らしを行い、その中で喜びや悲しみが重なっていくそんな時代が現代だと思います。

そこで話の本題です。そういう先行き不透明でグローバルなつながりのある時代を生きていくにはどのような力が必要なのか。武蔵生にはどのような力を身に付けることを期待したいのか。新しい年に際し、そのことを考えてみたいと思います。

実はこのことを考える上で、大変示唆に富む考えがあります。国際バカロレア（IB International Baccalaureate）の目指す学習者像、「IB learner profile」です。皆さん聞いたことはありますか。

IB国際バカロレアというのは、世界各国の大学に進学するための国際資格です。このIBは、もとは国際機関が集中して立地するスイスで、国際機関に勤める子弟を進学させるために、世界に通用する大学進学資格として始まった仕組みで、現在様々な国に広がっています。まずこのIBの理念ですが、「多文化に対する理解と尊敬を通じて、平和でより良い世界の実現のために貢献する、探究心、知識、そして思いやりのある若者の育成を目指す」と定められています。まさに今お話ししている先行き不透明なグローバル時代を生きるということだと思います。

そして、その目的を実現するために、どんな人間であってほしいかを示しているのがIBの「目指す学習者像」「IB learner profile」です。10か条あります。まさにグローバル人材の「世界標準」といえると思います。この10か条を、これから英語と日本語で読み上げますので、皆さんも手を胸に当てて、自分はその求める人材にあっていようか。まず何個該当しているか、数えてみて下さい。

- 1 inquires 探究する人
- 2 knowledgeable 知識のある人
- 3 thinkers 考える人
- 4 communicators コミュニケーションができる人
- 5 principled 信念を持つ人
- 6 open-minded 心を開く人
- 7 caring 思いやりのある人
- 8 risk-takers リスクのとれる人（チャレンジする人）
- 9 balanced バランスのとれた人
- 10 reflective 振り返りができる人

あてはまるものはいくつありましたか。今度はもう一度読むので、これは一番自分にある力だなというのと、これは絶対自分に足りないと思うことを、それぞれ一つずつ考えてみてください。

どうでしたか。最後にこのIBの学習者像を踏まえ、新年の抱負として、武蔵生全般が持っている強みと、今後さらに期待したいことを述べたいと思います。

43年ぶりに母校の武蔵に戻ってきて、武蔵生の強み、武蔵生の良さは何かと考えると、このIBプロフィール10か条に関連すると、まず考える人。そして探求する人。これらはまさに武蔵の三理想です。こうした力は皆さん持っている。武蔵の空気の中で、確実に育っている。武蔵に戻ってきて、面談をしたり、授業を見させてもらったりして、武蔵生の良いところとしてあげられるのは、独創的なところ、自分の言葉を持っていること。自分で考えようとしていること。これは本当に素晴らしいと思います。そうした独創力が、先行き不透明な混とんとした時代を、間違いなく切り開いていくと私は思います。

それでは武蔵生にさらに伸ばしてもらいたいところは何か。まず、一つはリスクテイカーズ。リスクを取ってみること。言い換えればチャレンジすること。これ大事だよね。でもなかなか難しい。なんだかんだ理由をつけて、人はなかなかチャレンジできない。失敗

を恐れずに何かをやってみようという気持ちを持ち続けてほしいと思います。

たまたまですが、来年度から武蔵大学と連携した高大連携の一環として、中3から高2の生徒を対象に「アントレプレナーシップ」の講座が始まるという案内がきました。「アントレプレナー」って聞いたことがありますか。起業家といいます。自分の力でチャレンジして事業を起こすことです。まさにリスクテイク者だと思います。毎週金曜日の放課後、大学の教室で講義を行い、現在活躍中の様々な起業家をゲストとして招いてお話を聞くそうです。この講座に限らず、他にも同様の案内が来れば、その都度2階廊下のチャレンジ掲示板に情報を随時提供するとのことですので、チェックするとよいと思います。

そして、リスクテイク者に加えてもう一つ期待したいことはケアリング、思いやりのある人です。

一学期の始業式にも二学期の始業式にも「公共心」の話をしました。自分のことだけでなく、人のため社会のためという意識をどっかで持つ。そのことは絶対大事だと私は確信しています。なぜならば、自分のことばかり考えている人は絶対にその後の人生のどこかで躓くか、あるいは躓かなくても、人と本当のところではつながれないさみしい人生を送ってしまうような気がするからです。

例えば平気でゴミを捨てる人。おかしいと思います。それも自由だと主張する人がいるかもしれませんが、自由が人の不自由の上に成り立っているとしたら、それは自由ではなく、単なる自分本位にしか過ぎない。武蔵は、階段やトイレの掃除は、毎朝職員のおじさんやおばさんがやってくれています。それで毎日きれいな環境を保っています。そうした掃除も生徒がやっている学校は多いと思いますが、武蔵のやり方はそれはそれで有り難いと思います。掃除をしてもらっているおじさんおばさんにも、何気なく感謝の言葉をかけられる人であってほしいと思います。それがこのIBで言うところの「思いやりのある人」だと私は思います。

今日は2020年という東京オリンピック開催という新しい年に際し、これからの混迷した時代を生きていくためにどんな力が必要なのか。自ら調べ自ら考える、自調自考ができるという武蔵生の強みに加えて、さらにリスクを取る・チャレンジをすること、そして思いやり・公共心も大事にしようという期待も含めてお話させていただきました。ぜひ、一年の計は元旦にあり。それぞれの目標を定め素晴らしい年にしてください。

最後に高校3年生へ。センター試験まであとわずかです。ぜひ体調には気をつけて頑張ってください。前にお話ししたように、ネバー・ネバー・ネバー・ネバー・ネバーギブア

ップ。絶対に諦めることなく、頑張ってください。

それでは充実した三学期、そして素晴らしい2020年になることを期待して私の話を終わります。